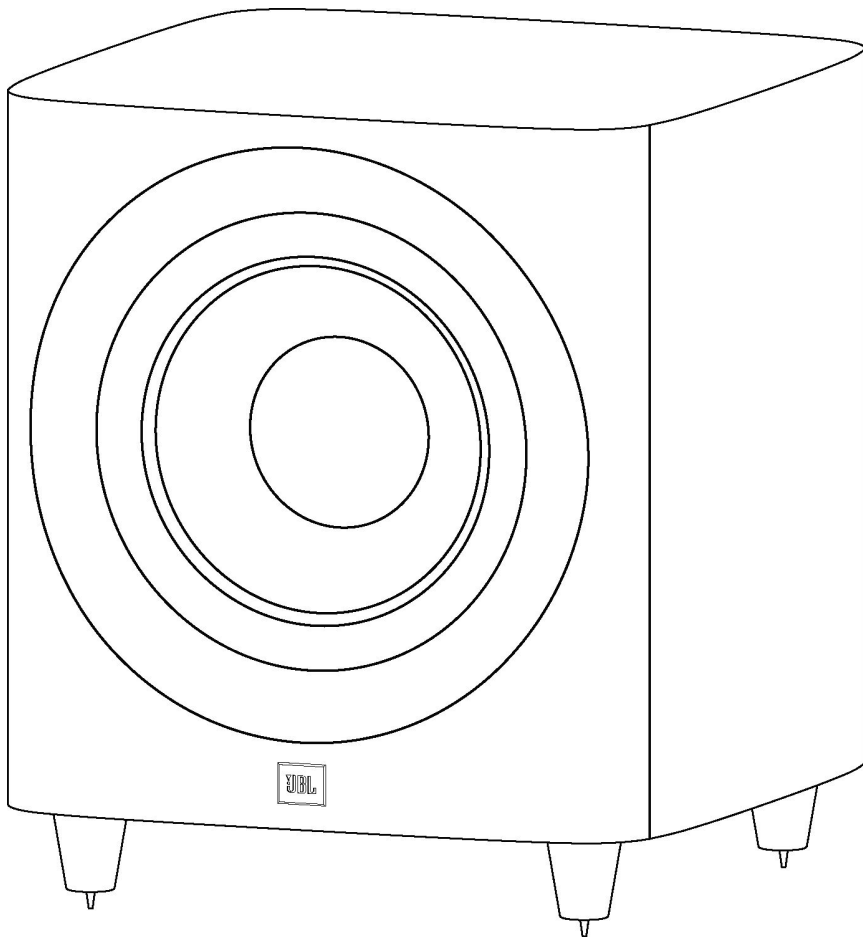




HDI-1200P

パワード Subwoofer



取扱説明書

重要な安全上の注意

1. この機器を本棚や類似した設備のような狭い、または作り付けのスペースに設置せず、解放された場所で通気を良くしておいてください。
新聞、テーブルクロスまたはカーテンのような物で通気開口部を覆って通気を妨げないでください。
2. 火の付いたろうそくのようなむき出しの炎源を装置上に置かないようにしてください。
3. この製品は適度な温度で使用するように設計されています
4. 電圧セレクター: 入力定格 (110-120Vac/60Hz および 220-240Vac/50Hz) を調整するために使い、セレクターの設定範囲内の電圧のコンセントに主電源プラグを差し込んでください。主電源ヒューズリンクの定格電流は入力定格によって異なります (詳細についてはマークをご覧ください)。適切な主電源ヒューズリンクは工場での組み立て流れ作業中のセレクターの設定として入力定格に関連しています。電圧セレクターを調整する前に、主電源ヒューズリンクの交換を専門の業者に依頼してください。
5. ⚠️ 保護接地端子。装置は保護接地接続で主電源コンセントに接続する必要があります。
In Denmark: "Apparatets stikprop skal tilsluttes en stikkontakt med jord, som giver forbindelse til stikproppens jord."
In Finland: "Laite on liitettävä suojakoskettimilla varustettuun pistorasiaan"
In Norway: "Apparatet må tilkoples jordet stikkontakt"
In Sweden: "Apparaten skall anslutas till jordat uttag"

警告

1. メーカーによって指定、または提供された付属品のみを使用してください。
2. 火事または感電のリスクを減らすため、この装置を雨または湿気に当てないようにしてください。
この装置には水滴または水しぶきを当てず、装置の上に花瓶のような液体を満たした物を置かないようにしてください。
3. 主電源プラグは機器の電源を切る装置として使用し、いつでも操作できる状態にしておいてください。

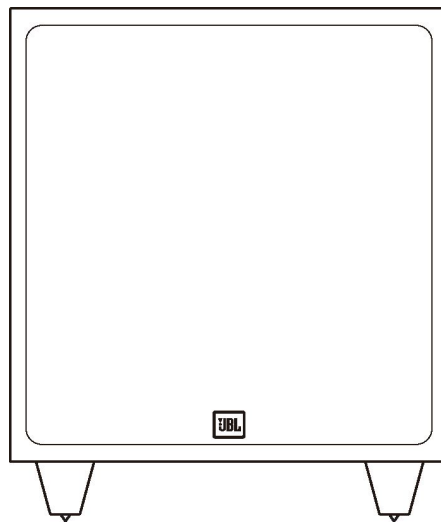
目次

同梱品目.....	1
グリルを取り付ける	2
SUBWOOFER の背面パネル・コントロールおよび接続	3
電圧トリガーソースにサブウーファーを接続する	4
SUBWOOFER の設置	5
接続する.....	5
ステレオレシーバー、アンプまたはプリアンプに接続.....	6
仕様.....	7
SUBWOOFER の操作	7
SUBWOOFER のオンとオフの切り替え	7
SUBWOOFER の調整: クロスオーバー	7
SUBWOOFER の調整: 音量.....	7
SUBWOOFER の調整: フェーズ.....	7
異常な状態: LED が点滅している.....	7
付属のカーペットスパイクを使用.....	7

JBL®

HDI-1200P

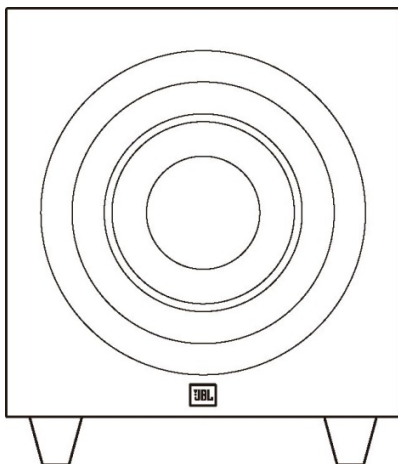
パワード Subwoofer



JBL®製品をお選びいただき、ありがとうございます

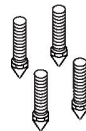
新しいJBL®のパワード subwoofer は高性能ドライバーおよび内蔵アンプを組み込んでいて、映画のサウンドトラックおよび音楽を生き生きしたものに
するパワフルでダイナミックかつ正確な低周波パフォーマンスを実現しています。そして、調整可能なクロスオーバーネットワーク、フェーズコントロール、自動オン/オフ機能を備え、接続と設定も簡単です

同梱品目

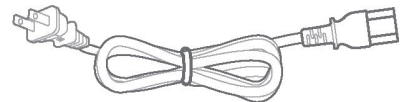


このJBL subwooferは期待されるあらゆる楽しい雰囲気を提供し、お客様が家、車、職場に追加のオーディオ機器のご購入をお考えの場合、必ずJBL製品を選択することになります。

このクイックスタートガイドにはお客様の新しいsubwooferを設置、接続、調整するのに必要な情報が全て記載されています。より詳細な情報を得るには、弊社のウェブサイトアクセスしてください: www.jblsynthesis.com.

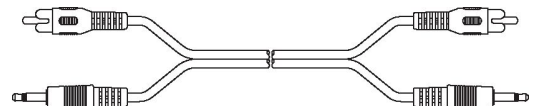


4X



1X

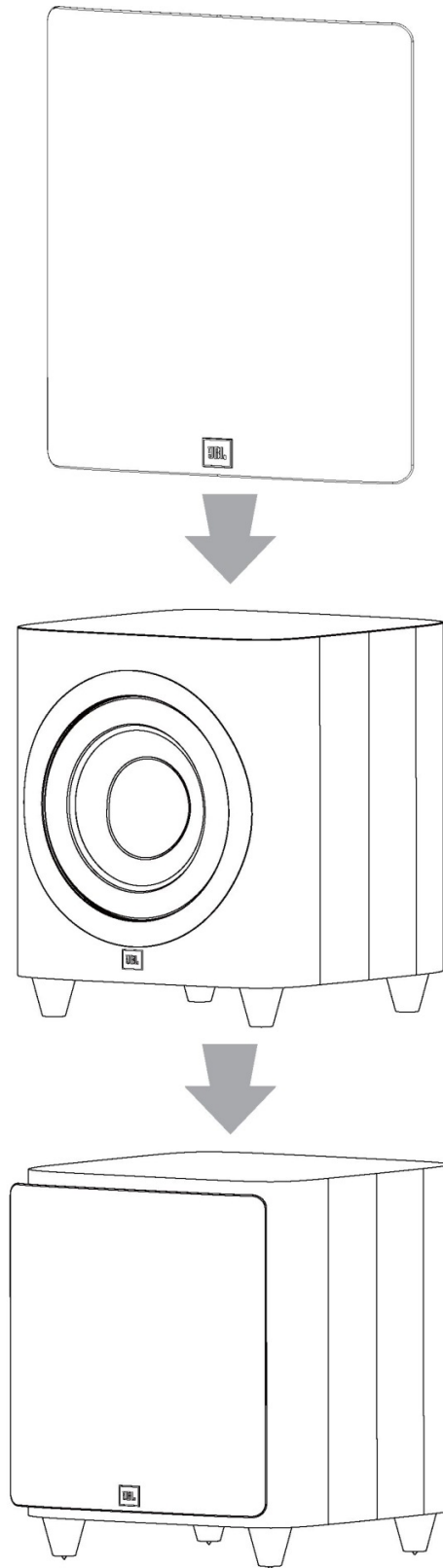
注: 電源プラグのタイプは地域によって異なります。



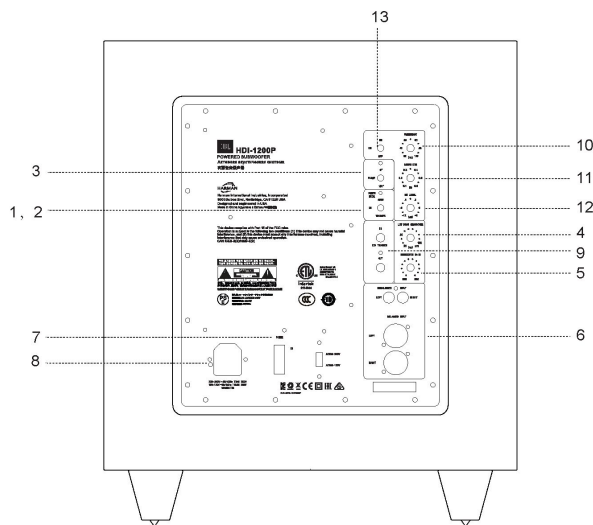
1X

一体型 LFE およびトリガーケーブル

ゲリルを取り付ける



SUBWOOFERの背面パネル・コントロールおよび接続



1) パワーモード:

「オート」ポジションに切り替えると、subwooferは次にスタンバイ・モードに入ります。オーディオ信号が検出されると自動的に電源が入り、約10分間オーディオ信号が検出されない場合、スタンバイモードに戻ります。このスイッチを「オン」にセットすると、電源スイッチが「オフ」になるまでsubwooferの電源は入ったままです。

2) オン/スタンバイLED:

電源スイッチが「オン」位置にある場合、subwooferの電源が入っていてもスタンバイ状態でも、このLEDが点灯します。

- LEDが緑色で光っている場合、subwooferの電源が入っています。
- LEDが赤く光っている場合、subwooferはスタンバイモードです。

3) フェーズスイッチ:

このスイッチが、subwooferドライバーがメインスピーカースと同相で、ピストンのように行き来する動きをするかどうかを決定します。subwooferがメインスピーカースと逆相で鳴っていた場合、メインスピーカースからの音波は部分的にsubwooferからの音波を相殺し、パワパフォーマンスと音のインパクトを低下させます。この現象は、リスニングポジションに対する全スピーカース、および部屋内の各スピーカースの設置場所によってある程度決まります。

4) ローパスクロスオーバー:

このコントロールは、subwooferがサウンドを再生する最大周波数を決定します。設定するクロスオーバーコントロールが高ければ高いほど、subwooferが作動する周波数も高くなり、低音がスピーカースの低音とより「オーバーラップ」します。この調整により、様々な異なる部屋やサブウーファースの位置にかかわらず、subwooferとスピーカース間のバス周波数のスムーズな移行が実現します。

5) Subwooferゲイン:

このコントロールを使用して、subwooferのボリュームを調節してください。つまみを時計回りに回すと音量が増大し、反時計回りに回すと音量が減少します。

6) 入力コネクタ:

ステレオブリックの出力、または左右どちらかの入力にサラウンドプロセッサのsubwoofer出力を接続します。バランスド(XLR)およびアンバランス(RCA)コネクタが使用可能です。入力は公称0dBVで、最大+12dBVアンバランスド/最大+18dBVバランスドです。XLR入力は2番ピンがホットです。

7) 電源スイッチ:

Subwooferの電源を入れるには、このスイッチを「オン」位置にセットしてください。外出する、または長時間サブウーファースを使用しない場合

は、電力を節約するためにこのスイッチを「オフ」位置にセットしてください。

8) 電源コードコネクタ:

Subwooferの入力接続を行って確認した後、subwooferが適切に作動するように、電源コードをアクティブでスイッチコントロール式でない電源コンセントに差し込んでください。

いくつかのオーディオ製品に搭載されている付属の差し込み口に、この電源コードを絶対に差し込まないでください。

9) 12Vトリガー入力/出力コネクタ:

subwooferのパワーモードスイッチが「トリガー」に設定されていて、接続が12Vトリガーで5V-12Vになっている場合は自動的にsubwooferの電源が入り、接続電圧が解除された場合は電源が切れます。いつでも、subwooferの電源が入っていれば、12Vトリガー出力コネクタで12Vトリガー信号が使用可能です。HDI-1200P subwoofers、または他のトリガー可能なデバイスの追加使用向けです。

10) パラメトリックイコライゼーション(PEQ)コントロール:

これらのイコライゼーションコントロールは、特定のリスニングルームのリスニング位置で、主要なルームモードを調節します。パラメトリックイコライゼーションには周波数、帯域幅、1バンド周波数のEQレベル調整を行う可変コントロールが含まれます。これらのコントロールを使用するには、まずEQスイッチを「オン」にセットする必要があります。

注: イコライゼーションコントロールを適切に調節するには、特別な測定装置が必要です。JBL認定販売店は、確実に最適な結果を出す適切な装置を使用して、適切な測定をすることができます。

11) EQ周波数コントロール:

特定の問題領域の中央周波数を選択します。レンジは32Hz~100Hzです。

12) EQ帯域幅コントロール:

イコライゼーションが有効になる周波数レンジを設定します。レンジは0.1オクターブ~0.6オクターブです。数字が大きいほど、影響を受ける周波数レンジが広がります。

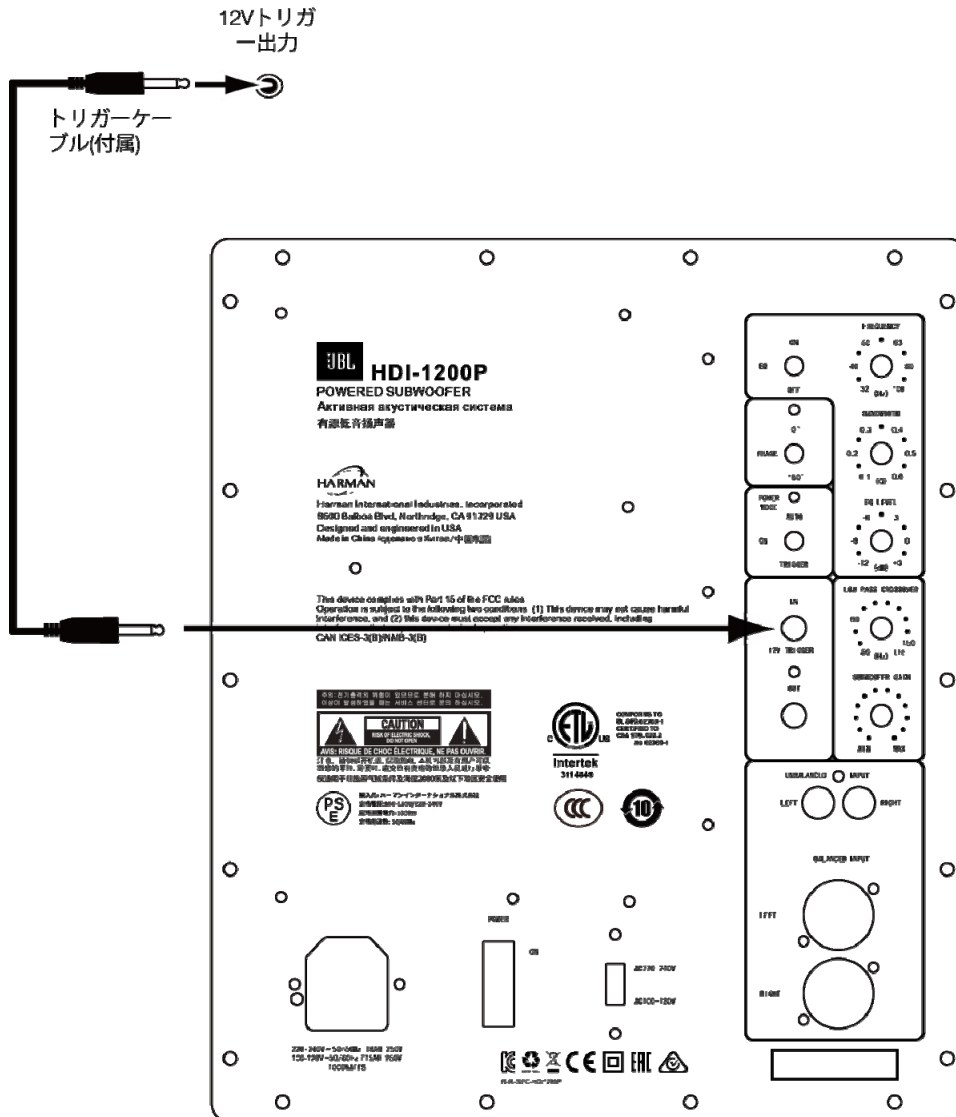
13) EQレベルコントロール:

EQ周波数コントロールにより、ブーストまたはカットが選択された周波数にどの程度適用されるかを調整することが可能です。このコントロールは-12dBから最大で+3dBまで調節できます。

14) EQオン/オフスイッチ:

パラメトリックEQコントロールが使用可能/使用不可(周波数、帯域幅、EQレベルコントロール、ただしフェーズはコントロールできません)。

電圧トリガースourceにサブウーファーを接続する



外部トリガー入力コネクタでトリガー電圧を受信すると、subwooferは自動的にオンになり、電圧が停止するとスタンバイモードに入ります。

プリアンプ/プロセッサまたは別のオーディオ/ビデオコンポーネントが、3V~30V(ACまたはDC)間で供給されるトリガー電圧接続ができる場合は、subwooferの外部トリガー入力コネクタに接続します。コンポーネントのトリガー電圧接続に3.5mmミニジャックがある場合は、付属の一体型LFE/トリガーケーブルを使用して接続することができます。

注: subwooferの外部トリガー入力コネクタをホームシネマシステムまたはサラウンドレシーバーのリモートコントロール出力(IR出力)に接続しないでください。故障の原因になることがあります。

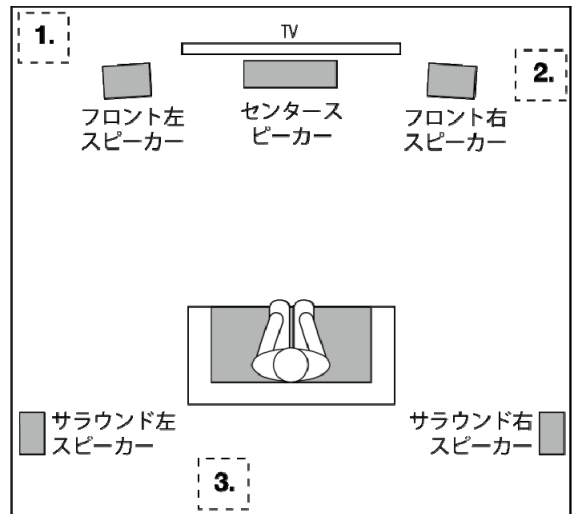
SUBWOOFER の設置

subwoofer のパフォーマンスは、リスニングルーム内の設置とシステムの他のスピーカーに対する物理的位置に直接関係しています。

一般に、私たちの耳が subwoofer が作動する位置での低域特性の指向性サウンドを聴き取れないのは事実です。一方、subwoofer を、ある部屋の限られた領域内に設置する場合、部屋の内部で起こる反射、定在波、吸収が subwoofer システムのパフォーマンスに強い影響を与えます。結果として、部屋内の subwoofer の特定の位置が、生み出される低音の量と質にとってきわめて重要になります。

例えば、一般的に subwoofer を壁のそばへ設置すると、部屋の低音量が増加します。一般的に隅 (1) に置くと、部屋の低音量が最大になります。しかし、隅への設置は、バスパフォーマンスに関する定在波のマイナスの影響をも増強させる可能性があります。この影響はリスニングポジションに応じて変化する可能性があります。あるリスニングポジションでは非常に良い結果をもたらすことがありますが、別のポジションでは、特定の周波数で低音があまりにも強く (弱く) なりすぎることがあります。

多くの部屋では、左右のスピーカー (2) と同じ平面に subwoofer を置くと、subwoofer と左右のスピーカーのサウンドに最高の融合を生み出すことが可能です。一部の部屋で最高のパフォーマンスが得られたのは、リスニングポジション (3) の背後に subwoofer を設置したためです。



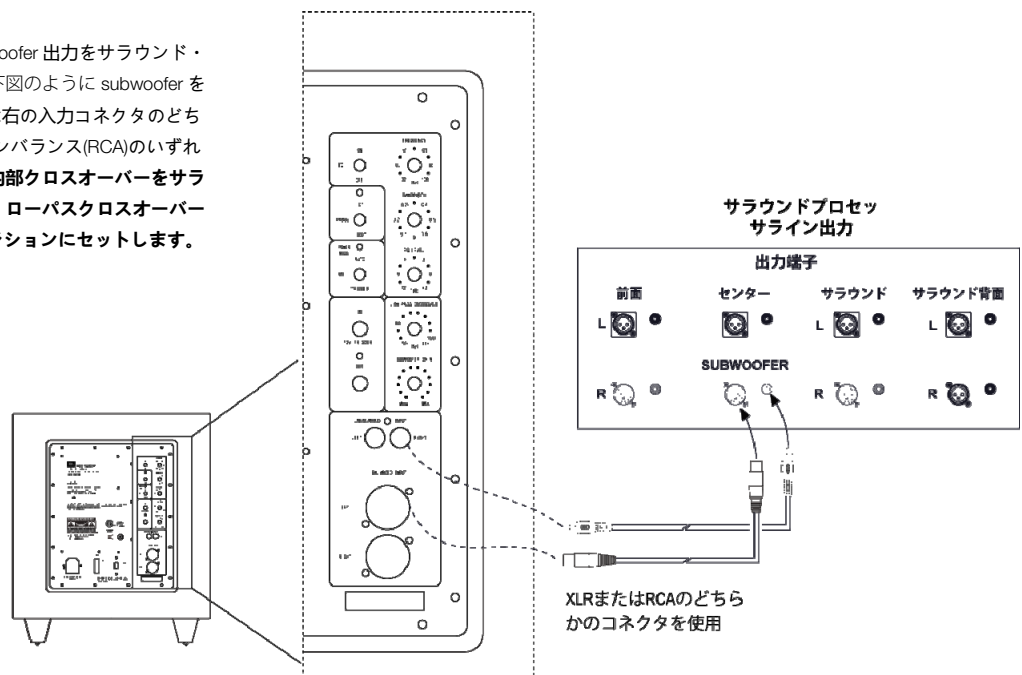
subwoofer の最終的な位置を選択する前に、設置場所を試すことを強くお勧めします。subwoofer の最高の位置を決められる方法の一つは、一時的にリスニングポジション内に置いて、強い低音を含んだ音楽をかけることです。システムが音楽を再生しているうちに (サブウーファーが置かれていた位置に耳を持っていく)、部屋の色々な場所に動かしてみ、最高の低音パフォーマンスが得られる位置を発見するまでリスニングしてください。subwoofer をその位置に設置してください。

接続する

警告: 接続する際は必ずすべての機器の電源が入っていない状態で行ってください。

内部クロスオーバーの AV サラウンドレシーバーまたはプロセッサへの接続

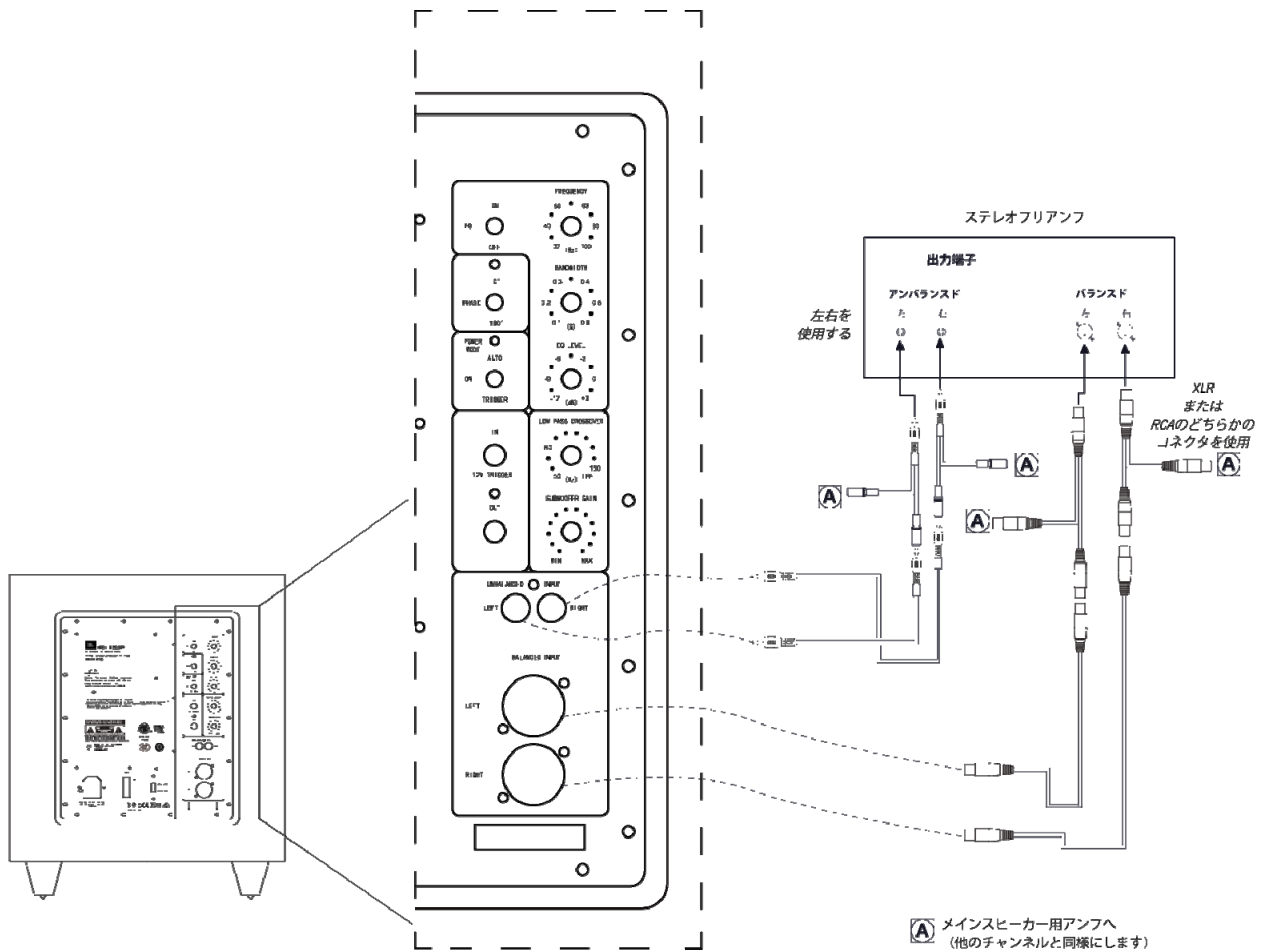
ローパスフィルターを通した subwoofer 出力をサラウンド・プロセッサに接続している場合、下図のように subwoofer を接続します。subwoofer の左または右の入力コネクタのどちらかに、バランスド(XLR)またはアンバランス(RCA)のいずれかの接続をすることができます。内部クロスオーバーをサラウンドプロセッサに接続する場合、ローパスクロスオーバーコントロールつまみを「LFE」ポジションにセットします。



ステレオレシーバー、アンプまたはプリアンプに接続

ステレオデバイスを接続している場合、下図のようにsubwooferを接続します。ステレオ機器にはめったにsubwoofer出力が付いていません。付いている場合は、それを使用してください。ない場合は、必ず左出力と右出力用のYコネクタを使用して、subwoofer入力を各Yコネクタの一方に、左、または右のメインスピーカーアンプ用の入力を適切なメインスピーカー操作のYコネクタのもう一方の端に接続します。デバイスとsubwoofer間をバランスド(XLR)またはアンバランス(RCA)接続することができます。

この接続方法を使用する場合は、ローパスクロスオーバーつまみを 50 ~ 150Hz 間の周波数に設定する必要があります。絶対に「LFE」設定にはしないでください。



Ⓐ メインスピーカー用アンプへ
(他のチャンネルと同様にします)

仕様

モデル	HDI-1200P
説明	1000W RMS パワード Subwoofer
エンクロージャータイプ	ダウンファイアリングポート付き、バスリフレックス設計
LF ドライバーコンポーネント	12 インチ/300mm ブラックベーパーコーン、キャストフレームウーファー
クロスオーバー周波数	50Hz ~ 150Hz (可変式) 24dB/オクターブ
周波数特性	28Hz ~ 150Hz (-6dB)

SUBWOOFER の操作

SUBWOOFER のオンとオフの切り替え

subwooferの電源スイッチを「オン」にします。次に、subwooferのパワーモードを「オート」位置にセットしてください。Subwooferはオーディオ信号を受けると自動的にスイッチが入り、約10分間オーディオ信号を受けない場合はスタンバイモードに入ります。subwooferがオンの場合はLEDが緑色に光り、スタンバイ状態の場合は赤く光ります。

subwooferを長時間使用しない場合(例えば休暇で出かけている場合)は電源スイッチを「オフ」位置にセットしてください。

SUBWOOFER の調整: クロスオーバー

クロスオーバーコントロールは、50Hz ~ 150Hzの間でサブウーファーの内蔵ローパスフィルタークロスオーバーを調節します。設定するクロスオーバーコントロールが高ければ高いほど、subwooferが作動する周波数も高くなり、低音がスピーカーの低音とより「オーバーラップ」します。この調整により、様々な異なる部屋やサブウーファーの位置にかかわらず、subwooferとスピーカー間のバス周波数のスムーズな移行が実現します。

クロスオーバーコントロールを設定するために、低音の滑らかさに耳を傾けてください。低音が特定の周波数で強すぎるように思える場合は、より低いクロスオーバーコントロール設定をお試しください。低音が特定の周波数で弱すぎるように思える場合は、より高いクロスオーバーコントロール設定をお試しください。

SUBWOOFER の調整: 音量

音量コントロールを使用して、subwooferの音量を設定してください。つまみを時計回りに回すとsubwooferの音量が増大し、反時計回りに回すと音量が減少します。一度システム内の他のスピーカーとsubwooferの音量バランスを取れば、音量コントロール設定を変更する必要はありません。

Subwoofer音量設定時の注意:

- 音楽には最適なsubwoofer音量設定は映画では大きすぎるかもしれませんが。また、映画向けの最適な設定は音楽を聴くには控えめすぎます。Subwooferの音量を設定する場合、音楽と映画両方の強い低音を聴いて、双方に合った「妥協できる」音量レベルをお探してください。
- Subwooferの音が大きすぎる、または小さすぎるように感じる場合、異なった位置にsubwooferを置いてみてください。さらにsubwooferを部屋の隅に置くと低音出力が増加する傾向があり、壁または隅から離して置くと低音出力が減少する傾向があります。

所用電力	100V ~ 240V 50/60Hz
消費電力 (アイドル時/最大)	約 0.5W(スタンバイ時) 1180W/7.7A (最大-230Vac) 1230W/12.87A (最大-120Vac) 1190W/15.97A (最大-100Vac)
寸法 (幅×奥行×高さ、グリルを含む):	16.3x17.77x16.95 インチ (414x451.3x430.5mm)
製品重量 (グリルを含む):	約 70.08 ポンド (31.79kg)

SUBWOOFER の調整: フェーズ

subwooferドライバーがスピーカーと同相で、ピストンのように行き来する動きをするかどうかをフェーズスイッチが決定します。subwooferがスピーカーと逆相で鳴っていた場合、スピーカーからの音波は部分的にサブウーファーからの音波を相殺し、バスパフォーマンスと音のインパクトを低下させます。この現象は、スピーカー同士、および部屋の中のリスナーに対する全スピーカーの設置場所によってある程度決まります。

ほとんどの場合、フェーズスイッチは「ノーマル」位置のままにしておくべきですが、フェーズスイッチについては絶対に正しい設定は存在しません。subwooferが適切にスピーカーと同相である場合、サウンドはよりクリアになり、最高のインパクトがあって、ドラムのような打楽器のサウンド、ピアノ、弦楽器のサウンドがより生き生きと聞こえます。フェーズスイッチを設定する最良の方法は、よく知っている音楽を聴き、ドラムや他の打楽器のサウンドが最高のインパクトを持つ位置にスイッチを設定することです。

異常な状態: LED が点滅している

- LED が 30 秒未満赤く点滅する: Subwoofer が保護モードですが、元の状態に戻ります。LED が緑色になります。
- LED が 30 秒超赤く点滅する: LED ライトが消えるまで、AC 電源のプラグを抜くか、スイッチを切ってください。AC 電源をコンセントに差し込むか、スイッチを入れると、subwoofer は元の状態に戻ります。LED が緑色になります。


付属のカーペットスパイクを使用

subwooferをカーペットの上に設置して使えるように、4個の金属スパイクが付属しています。カーペットが敷かれていない床にsubwooferを設置する場合は、これらのスパイクを使用しないでください。

スパイクをはめ込むには:

- 柔らかくて傷の付かない面に、subwooferを側面を下にして（前面または背面を下にせず）そっと倒してください。
- それぞれの脚に各スパイクをねじ込んでください。4つ全てのスパイクが完全に安定してねじ込まれたことをご確認ください。

注:動かすために、決してsubwooferを引きずらないでください。subwooferの位置を変える場合は、慎重に移動させてください。

Торговая марка	: JBL
Назначение товара	: Активная акустическая система (HDI-1200P)
Изготовитель	: Харман Интернешнл Индастриз Инкорпорейтед, США, 06901 Коннектикут, г.Стамфорд, Атлантик Стрит 400, офис 1500
Страна происхождения	: Китай
Импортер в Россию	: ООО «ХАРМАН РУС СиАйЭс», Россия, 127018, г.Москва, ул. Двинцев, д.12, к 1
Гарантийный период	: 1 год
Информация о сервисных центрах	: www.harman.com/ru тел. +7-800-700-0467
Срок службы	: 5 лет
товар сертифицирован	: 
Дата производства	: Дата изготовления устройства определяется по двум буквенным обозначениям из второй группы символов серийного номера изделия, следующих после разделительного знака «-». Кодировка соответствует порядку букв латинского алфавита, начиная с января 2010 года: 000000-MY0000000, где «M» - месяц производства (А - январь, В - февраль, С - март и т.д.) и «Y» - год производства (А - 2010, В - 2011, С - 2012 и т.д.).

Используйте устройство только по прямому назначению в соответствии с предоставленной инструкцией. Не пытайтесь самостоятельно вскрывать корпус товара и осуществлять ремонт. В случае обнаружения недостатков или дефектов, обращайтесь за гарантийным обслуживанием в соответствии с информацией из гарантийного талона. Особые условия хранения, реализации и (или) транспортировки не предусмотрены. Избегайте воздействия экстремальных температур, длительного воздействия влаги, сильных магнитных полей. Устройство предназначено для работы в жилых зонах. Срок годности не ограничен при соблюдении условий хранения.



EN :For additional languages, please visit jblsynthesis.com
FR :Pour les autres langues, veuillez visiter jblsynthesis.com
ES :Para obtener otros idiomas, visite jblsynthesis.com
DE :Informationen in weiteren Sprachen finden Sie unter jblsynthesis.com
RU :Если вам нужны версии на других языках, перейдите на сайт jblsynthesis.com
JP :他の言語で読むには、jblsynthesis.com にアクセスしてください
KO :추가 언어에 대해서는 jblsynthesis.com 에서 확인하십시오
CHN :如需其他语言, 请访问 www.jblsynthesis.com



产品中有害物质的名称及含量

部件名称	目标部件	有害物质或元素					
		铅(Pb)	汞(Hg)	镉(Cd)	六价铬(Cr(VI))	多溴联苯(PBB)	多溴二苯醚(PBDE)
电路板	印刷电路板, 电路板上的电子零件 (不包括特定电子零件), 内部相关连接线	X	0	0	0	0	0
箱体	外壳, 面板, 背板等	X	0	0	0	0	0
特定电子零部件	变压器, 保险丝, 大型电解电容, 电源插座	X	0	0	0	0	0
附件	电线, 说明书, 包装等	X	0	0	0	0	0

本表格依据 SJ/T 11364 的规定编制

O: 表示该有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在 GB/T 26572 规定的限量要求以下。

X: 表示该有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出 GB/T 26572 规定的限量要求。



在中华人民共和国境内销售的电子电气产品上将印有“环保使用期”(EPuP)符号。圆圈中的数字代表产品的正常环保使用年限。



ハーマン・インターナショナル・インダストリーズ 株式会社 (HARMAN International Industries, Inc)
8500 Balboa Boulevard, Northridge, CA 91329 USA

© 2020 HARMAN International Industries, Incorporated(ハーマン・インターナショナル・インダストリーズ株式会社)。無断複写・転載を禁じます。

JBLおよびHDI (高解像度イメージング)は、ハーマン・インターナショナル・インダストリーズ 株式会社(HARMAN International Industries, Incorporated)の登録商標で、米国やその他の国々で登録されています。

PolyPlasおよびSymmetrical Field Geometryはハーマン・インターナショナル・インダストリーズ 株式会社 (HARMAN International Industries, Incorporated) の商標です。

特徴、仕様および外観は、予告なしに変更されることがあります。

www.jblsynthesis.com

パート No. 950-0564-001